

午後Ⅱ試験

プロジェクトマネージャ試験では、論述の対象としている“プロジェクト”について、適切に説明することが重要である。設問アについては、“プロジェクトとしての特徴”の論述を求めたが、システム開発に至った背景やシステムの機能、開発するシステムへの期待、受験者がプロジェクトに参加するに至った背景、自分の経歴などに終始した論述が多かった。

各問に共通した点として、問題文中で例として示している工夫や対策などを単に引用しているだけで具体性や説得力に乏しい論述が目立った。受験者の経験や知見や工夫が適切に論述されていないものは、受験者の能力や経験は十分でないと評価せざるを得ないので、実際の経験に基づき設問に沿って具体的に論述してほしい。

問 1（システム開発プロジェクトにおける要件定義のマネジメントについて）では、要件を定義する際に計画した、要件の膨張を防ぐための対応策や要件の定義漏れや定義誤りなどの不備を防ぐための対応策についての具体的な論述が多かった。一方、要件が膨張してからの対策や要件ではなく要求の膨張を防ぐ対応策の論述も見られた。

問 2（システム開発プロジェクトにおけるスコープのマネジメントについて）では、スコープの変更に至った原因とそれによるプロジェクト目標の達成に及ぼす影響、スコープの変更の要否の決定、スコープの再定義の際の留意点についての具体的な論述が多かった。一方、スコープ変更に至った原因を明確にせず、結果だけの論述や、成果物の範囲と作業の範囲の変更点が不明確な論述も見られた。

問 3（システム開発プロジェクトにおける利害の調整について）では、プロジェクト関係者の間で対立した利害を調整しながら問題を解決したことについての具体的な論述が多かった。一方、利害が不明確あるいは利害が対立していない論述や利害調整という言葉を使いながら実態は単なる話し合いにすぎない論述も見られた。